

■松浦武四郎 北方探検家。幕府の蝦夷支配に反発し辞職，新政府でアイヌ地名を漢字化も，アイヌ政策に失望し辞職。

まつうらたけしろう
水野忠成老中

1818＝伊勢国一志郡須川村で，郷士松浦桂介(時春，後に慶裕)の第四子に生まれる。幼名竹四郎。

・・・・・・1826＝8歳：出家したいと言い出したり，
日本外史・・1827＝9歳：

名所図会や地誌を愛読したり，名句をものにするなど，早熟・利発で，

富籤流行・・1830＝12歳：この年，お蔭参りが自宅前を通ると未知の国への思いが募り，津の藩儒平松楽斎に入門，塾を訪れる梁川星巖・大塩中斎ら一流の学者の講義を聞くうち，ついに大志止めがなくなり，

天保大飢饉始1833＝15歳：突然退塾し家出，江戸に出，一旦連れ戻されるものの，
高島砲術・・1834＝16歳：北陸を皮切りに，東北，甲信越，山陰，山陽を巡って帰郷，
滑稽+人情本 1835＝17歳：「おそらく，忍者から”神足歩行”という速足の秘術を学んで免許皆伝。三重の物産会で，京都の山本亡羊と出会って，世の中の広さを教えられて，山本読書室の門人になる。
・・・・・・1836＝18歳：四国遍路し，
大塩平八郎乱1837＝19歳：九州を旅するうち，
適塾+ボン・1838＝20歳：長崎で疫病に罹り，地元の人々の介抱で一命をとりとめると，出家して僧となり，文桂と改名，
蚕社の獄・・1839＝21歳：平戸の寺院の住職となる。

天保改革弾圧1842＝24歳：対馬から朝鮮半島へ渡ろうとするが断念し，長崎の乙名津川文作から北方探査の緊急性を教えられ，
順天堂始・・1843＝25歳：九州の紀行「西海雑志」執筆。蝦夷地の調査を決意。
天保改革終・1844＝26歳：「四国遍路道中雑誌」執筆。蝦夷地を目指すも断念。
阿部正弘首座1845＝27歳：*初めて蝦夷地に渡って，アイヌ文化に魅了され，以後，とりつかれたように，
孝明天皇・・1846＝28歳：江差で頼三樹三郎と「一日百印百詩の会」を催す。2回目の蝦夷地調査(樺太)，この間，アイヌを軽んじる幕府になじめず，蝦夷地の大切さを，読書室の門人たちに訴え，シシャモを広め，読書室にエゾシマネズミの標本や，アイヌ語の地名を書き込んだ北海道の地図まで納めている。

北斎没・・1849＝31歳：さらに，水戸徳川家の庇護のもと，国後島・択捉島まで(3回目の蝦夷地調査)を探索し続けて，
国定忠治疎・1850＝32歳：帰郷すると，「初航蝦夷日誌」12巻・「再航蝦夷日誌」15巻・「三航蝦夷日誌」8巻を完成，松前藩が得ていた妙味を明るみにし，松平定信の「婆心録」まで出版しようとして，幕府の怒りを買い，刺客の目を逃れる潜行生活に入り，探検どころでは無くなったが，

尊徳報徳論・1851＝33歳：吉田松陰と海防問題を討議。
ペリー来航・1853＝35歳：吉田松陰の依頼でペリー一行の動静を調査。「壺の石(北蝦夷地)」を出版。江戸幕府が箱館奉行を置き，
開国開港・・1854＝36歳：宇和島藩の依頼でペリー一行の動静を調査。「壺の石(北蝦夷地)」を出版。江戸幕府が箱館奉行を置き，
安政大地震・1855＝37歳：蝦夷地を再直轄すると，*幕府御雇として蝦夷地御用掛に起用され，「後方羊蹄於路志」「於幾能以志」出版。
松下村塾・・1856＝38歳：4回目の蝦夷地調査して，「箱館往来」出版。
蕃書調所・・1857＝39歳：5回目の蝦夷地調査して，「蝦夷葉那志」「新選末和留辺志」出版。
五ヶ国条約・1858＝40歳：6回目の蝦夷地調査。この間の業績は，後に報告書献言集「燼心余赤」に記されるが，「近世蝦夷人物誌」が出版禁止となり，

安政の大獄・1859＝41歳：吉田松陰，頼三樹三郎ら斬罪に処せられる。「按西・按東・按北雇従録」32巻，「丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌」23巻，「戊午東西蝦夷山川地理取調日誌」26巻を完成し，「蝦夷漫画」「蝦夷地名奈留辺劃」「東西蝦夷山川地理取調図」28冊出版を出版するが，場所請負人のアイヌに対する過酷な扱いを詳細に記した日誌「近世蝦夷人物誌」については公にすることを許されず，江戸に帰って御雇を辞し，以後，市井において，

桜田門外変・1860＝42歳：「北蝦夷余誌」「蝦夷闊境山川地理取調大概図」「後方羊蹄日誌」「石狩日誌」「久摺日誌」「十勝日誌」「夕張日誌」「納沙布日誌」「知床日誌」「天塩日誌」「鴨屋頼先生一日百詩」「新板蝦夷土産道中寿五六」「新板箱館道中名所寿語六」「西蝦夷日誌初編」「同二編」「東蝦夷日誌初編」「同二編」など，多くの著書を刊行するうち，

8月18日政変 1863＝45歳：明治維新となると，蝦夷通ということから箱館府判官事に任じられ，
明治維新・・1868＝50歳：*北海道の道名，国名・郡名を選定。箱館府が開拓使になるとともに，開拓判官となって，従五位に叙せられる。「千島一覽扇面」「西蝦夷日誌三編」「東蝦夷日誌三編」「同四編」出版。この年，蝦夷地が北海道と改称され，アイヌ語の地名が残るよう次々と漢字の当て字を定めて行くが，新政府のアイヌ政策に同調できず，
戊辰戦争終・1869＝51歳：開拓判官を辞職し，従五位も返上。以後，清貧に甘んじ著述をもって余生を過ごし，「蝦夷年代記」「壺乃碑考」「林氏雑纂」「千島一覽」「西蝦夷日誌四編」「東蝦夷日誌五編」出版。

初の日刊新聞1870＝52歳：「竹島雑誌」「読史贅議逸編」「西蝦夷日誌五編」「東蝦夷日誌六編」出版。
廃藩置県・・1871＝53歳：伊勢度会県博覧会に収集品を出品し，書画会を催す。岩倉具視邸内の長屋から神田五軒町へ引越す。「東蝦夷日誌七編」出版。
学問のすすめ1872＝54歳：
明治6年政変 1873＝55歳：北野天満宮・上野東照宮へ大神鏡を奉納，以後，8年間にわたり大阪天満宮，金峯山神社(金峯山寺蔵王堂)，太宰府天満宮に大神鏡を奉納。

初の民間工場1875＝57歳：考古図録「撰雲余興」を出版。
西南戦争・・1877＝59歳：「新獲小集」「東蝦夷日誌八編」出版。
大久保暗殺・1878＝60歳：1回目の大台ヶ原登山。「乙酉掌記」「乙酉後記」出版。
明治14年政変1881＝63歳：2回目の大台ヶ原登山。「聖跡二十五霊社順拝双六」「丙戌前誌」「丙戌後記」出版。
内閣発足・・1885＝67歳：3回目の大台ヶ原登山。東海，近畿，四国，山陽，九州地方を旅する。富士山登頂。一疊一疊の書斎を造る。「木片勸進」「丁亥前記」「丁亥後記」出版。

帝国大学始・1886＝68歳：一徹を貫きながらマルチな才能を発揮して，従五位に叙せられ，没した。
国民之友始・1887＝69歳：没後24年，「近世蝦夷人物誌」がようやく出版される。

初の対等条約1888＝70歳：没後24年，「近世蝦夷人物誌」がようやく出版される。